

経済の舞台裏

2023年5月12日(金)

景気減速と高インフレの併存が続く米国

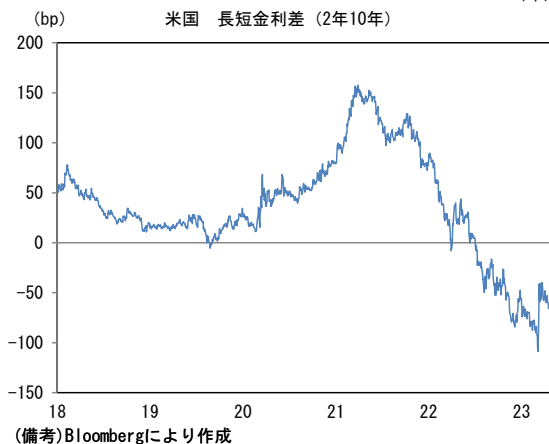
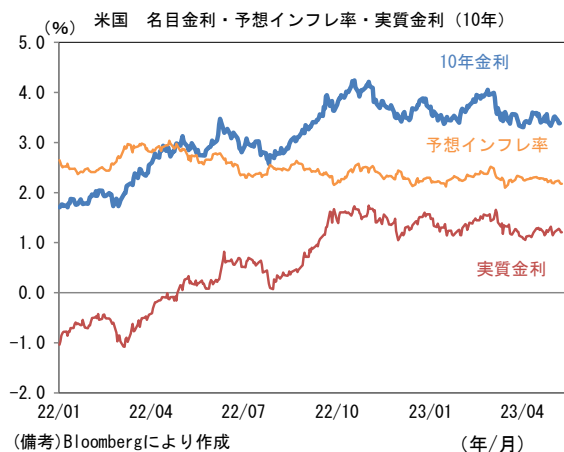
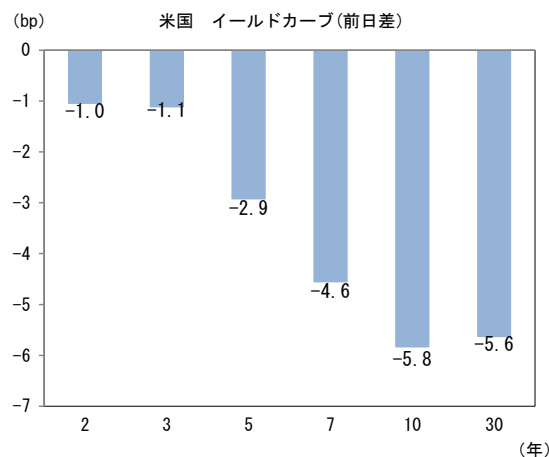
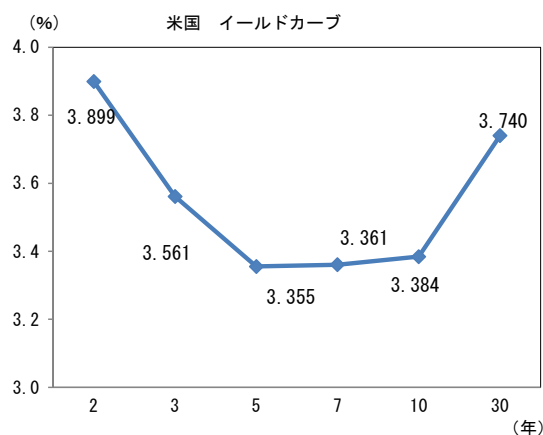
第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 050-5474-6123)

- ・日経平均は先行き12ヶ月28,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは先行き12ヶ月130程度で推移するだろう。
- ・日銀は現在のYCCを10-12月期に修正するだろう。
- ・FEDはFF金利を5.25%(誘導幅上限)で据え置くだらう。利下げは10-12月期を見込む。

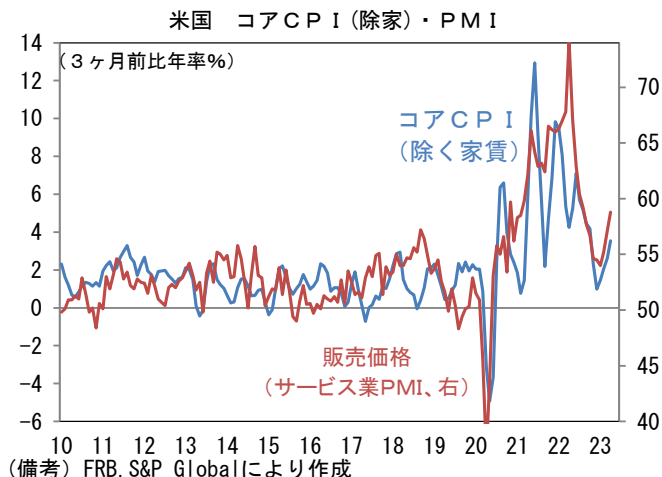
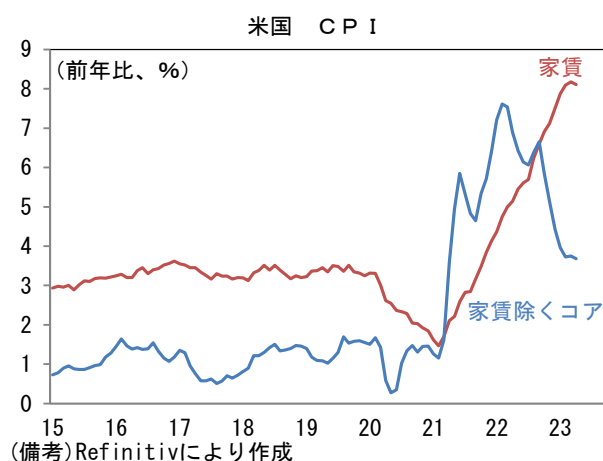
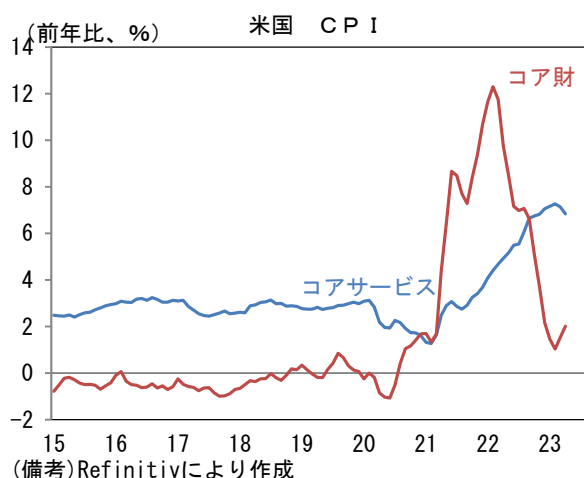
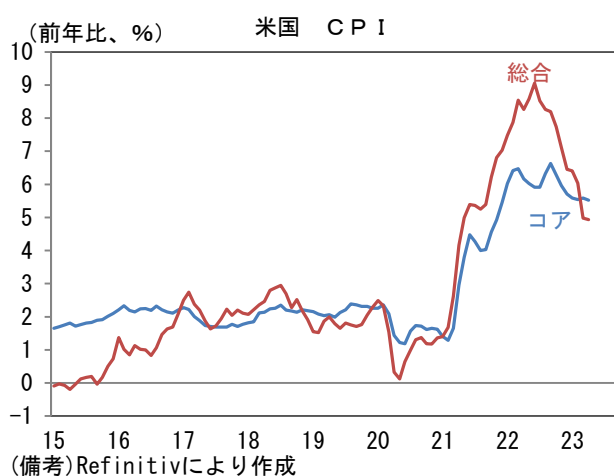
<金融市場>

- ・前日の米国株はまちまち。S&P500は▲0.2%、NASDAQは+0.2%で引け。VIXは16.9へと低下。
- ・米金利はブル・フラット化。予想インフレ率(10年BEI)は2.175%(▲1.3bp)へと低下。実質金利は1.210%(▲3.9bp)へと低下。長短金利差(2年10年)は▲51.7bpへとマイナス幅拡大。
- ・為替(G10通貨)はUSDが堅調。USD/JPYは134半ばへと上昇。コモディティはWTI原油が70.9ドル(▲1.7ドル)へと低下。銅は8163.5ドル(▲311.5ドル)へと低下。金は2020.5ドル(▲16.6ドル)へと低下。

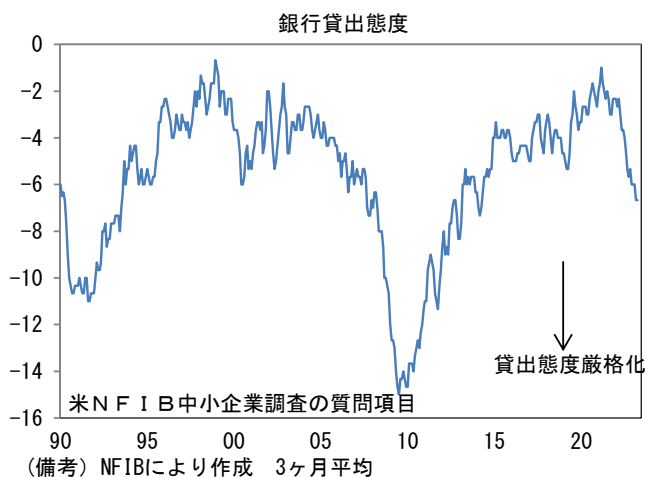
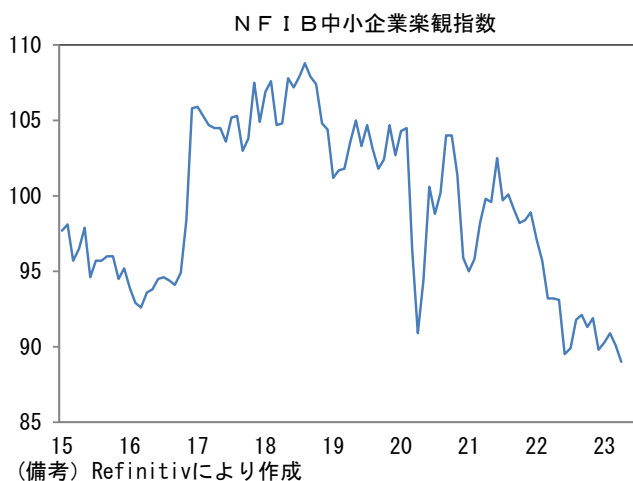


<注目点>

- ・今週発表された4月の米CPIおよびNFIB 中小企業調査を見る限り、米国経済は良くも悪くも3月から大きな変化がなさそうだ。景気減速と高インフレが併存する構図が続いている。
- ・4月の総合CPIは前月比+0.3%、前年比+4.9%となり3月から概ね横ばい（3月は前月比+0.1%、前年比+5.0%）。食料品が前年比+7.5%と高止まりした一方、エネルギーが前年比▲5.0%と2ヶ月連続のマイナス圏推移となり、総合インフレ率を大きく下押しした。これらを除いたコアCPIは前月比+0.4%、前年比+5.5%と2・3月と同程度の伸び。コアインフレ率は賃金異常値的な上昇を背景に伸び率鈍化が一服している。
- ・コアCPIを「財」と「サービス」に分解すると、コア財は前月比+0.6%、前年比+2.0%であった。素原材料価格が落ち着き、サプライチェーンも正常化する下で財インフレは終息しかかっていたが、ここへ来てぶり返しの兆候がみられた。中古車価格が前月比+4.4%と10ヶ月ぶりに上昇したことが強く効いた。
- ・コアサービスは前月比+0.4%、前年比+6.8%となり前年比上昇率は3月から小幅な減速に留まった。CPI全体のうち3割程度の比重を有する家賃が前月比+0.4%、前年比+8.1%と押し上げに寄与する構図が続いたが、家賃を除いたコアCPIにも加速の兆候が認められている点に注意が必要。4月は前月比+0.4%、前年比+3.7%と3月から概ね横ばい。3ヶ月前比年率では+3.5%であった。家賃を除いたコアCPIはサービス業PMIのサブ項目である「販売価格」の反転上昇と総合的にインフレのしぶとさを浮き彫りしている。



- ・他方、3月以降の銀行破綻の影響が懸念された中小企業は「そこそこ悪い」景況感が示された。NFIB 中小企業楽観指数は89.0と1.1ptの低下に留まった。銀行貸出態度の厳格化、すなわち資金繰り環境の悪化に脆弱な中小企業は、その景況感に非連続的な変化は発生せず従来からの悪化基調が継続。また中小企業からみた銀行貸出態度も大きな変化はみられず、こちらは安心材料であった。良くも悪くも景気減速と高インフレが継続している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。